



## 脇浜 紀子(わきはま のりこ) 京都産業大学 現代社会学部 教授

- ◆ 元読売テレビのアナウンサー(1990-2015)  
「ズームイン!朝!!」キャスター「ミヤネ屋」レポーター  
など、報道・情報番組を中心に担当
- ◆ 阪神淡路大震災の報道経験をきっかけにメディア研究を  
スタート
- ◆ Annenberg School for Communication, University of  
Southern California 修士号(2000)  
大阪大学国際公共政策 博士号(2010)



東洋経済新報社, 2001



中央経済社, 2014

- ◆ 2017年より現職 / 研究分野は地域メディア・地域情報
- ◆ 神戸生まれの神戸育ち、神戸在住  
神戸を拠点とした新しい地域メディア「078NEWS」プロジェクト主催
- ◆ 2023年6月 FIJ(認定NPO法人ファクトチェック・イニシアティブ)理事

視覚・聴覚・地域情報



白桃書房, 2022



中央経済社, 2019



日本評論社, 2015

(1) デジタル空間における情報流通に関する現在の課題として関心のあるもの

- ◆ 信頼できる社会の基本情報を取材・編集・ストーリーテリングできる事業者／人材の確保と育成
- ◆ 効果的なオーディオ・ビジュアル表現である「テレビ的手法」ノウハウの還元
- ◆ インフォメーション・ヘルスの担い手としての放送事業者の在り方
- ◆ AI等最新テクノロジーを活用した地域コンテンツの生成(例: AI無人カメラでの地域スポーツ中継)

ICT活用のためのリテラシー向上に関するロードマップ  
身につけるべき5つの能力(素案)  
d. デジタルコンテンツの作成・編集に関する能力

(2) デジタル空間における情報「流通」の「健全性」についてどのように考えているか、  
その他上記(1)の課題への対応にあたって前提とすべき基本理念

- ◆ 前提: デジタル空間は「健全」オンリーではない  
\* 界隈性や猥雑性あってこそその魅力
- ◆ とはいえ、健全にすごせる空間をわかりやすく確保することが必要
- ◆ 情報の受け手としての「守り」の強化(ファクトチェック、オリジネーター・プロフィール等)とともに、健全な情報を生み出す人材を多く育成する「攻め」の施策が重要
- ◆ だれもが自由に情報発信をできるという民主主義の実践機会を増やし、その質の向上を図る
- ◆ 質の向上＝信頼できる取材手法、飽きさせない編集、惹きつける語り、最新テクノロジー活用など

(3) 上記(2)の基本理念を踏まえ、各ステークホルダー(デジタルプラットフォーム事業者、生成AI事業者、仮想空間関係事業者、通信・放送事業者、利用者、政府・自治体など)が果たすべき役割

◆ 地上民間放送事業者の「公共性」への積極的なコミット

● ノウハウの還元

効果的なオーディオ・ビジュアル表現 / 一貫性と継続性のある情報発信

ex) KBC九州朝日放送のGlocal K

LivePark

● ソーシャル・ビジネス的なアプローチ

ex) チバテレミライチャンネル(地デジのマルチチャンネル活用)

「くまもっと まなびたいム」(コロナ禍の小中学校授業)

◆ 大学での体系的・実践的な学びの機会の提供<「教える人材」の育成>